

シンガポール・マレーシア 「形」で選ぶコア・ジャーナル

東川 繁

何がシンガポールおよびマレーシアのコア・ジャーナルか？とはいつても、人によつて意見は分かれる。そこで、ここでは形式を基準にして選んでみた。すなわち、①年一回以上の刊行頻度、②（時として遅延が発生するとしても）刊行が継続されている、③創刊後二〇年以上の歴史を持つ、④学術雑誌の場合は査読制度がある、といったものである。両国の主要なコア・ジャーナルの概要は表1および表2のとおりであるが、以下において個別の雑誌に関する付加的情報を簡単に記しておこう。白抜き数字は表1および表2の各雑誌に付した番号に符合している。

●シンガポールの「コア・ジャーナル」

①独立以前からの歴史を持つ経

済専門誌。創刊時の誌名はThe *Malayan economic review*。一九六九年に現在の誌名となる。編集事務局はナンヤン工科大学内にある。東南アジアを中心に、アジア全域の経済問題を対象とする。②シンガポール国立大学（NUS）歴史学科が編集するもの。創刊時の誌名は *Journal of Southeast Asian history*。一九七〇年に現在の誌名となる。③マレーシアのマラヤ大学地理学科でも、同じ一九八〇年に *Malaysian journal of tropical geography* という雑誌を創刊したが、こちらは二〇〇二年で停刊となっている。④シンガポール国立大学経営学会の創刊。アジア地域の経営問題、企業事情を主に扱うが、経営理論も取り扱う。⑤⑥⑦いずれもシンガポールの東南アジア研究所（ISEAS）が編集、発行するもの。これら三

誌で政治、経済、社会の社会科学部門全体を網羅しているといつてよい。同研究所は出版活動に熱心であり、財政充実の目的もあつてか販売活動にも積極的である。⑧東南アジア教育大臣機構の下部機関が刊行する、東南アジアの言語教育・言語事情などに関する学術・情報誌。誌名の RELC に E があるのは、以前の機関名に *English* が入っていたためである。第三三卷（二〇〇二年）までは年二回刊行。第三四卷（二〇〇三年）以降は年三回刊行。⑨中国語論文および英語論文を掲載する。中華圏からの投稿が多い。当初は年二回刊行。一九八九年から年刊となる。⑩本誌も、やはり中華圏からの投稿が多い。年二回刊行がしばらく続いたが、一九九六年から年刊となる。

●マレーシアの「コア・ジャーナル」

①創刊から一三〇年以上の歴史を持つ、著名な歴史学専門誌。JMBRAS の略称がよく使われる。創刊時は現誌名中の *Malaysian* は *Straits* であつた。一九二三年にこれが *Malayan* に変更され、一九六四年に現在の誌名となった。②から⑨までは、マレーシアの伝統ある三大学（マラヤ大学、マレーシア国民大学、マレーシア科学大学）が刊行する学術雑誌。使用言語はいずれも英語またはマレー語であるが、実質上英語雑誌となっているものもある。②誌名は「歴史」の意味。創刊時の誌名は *Jurnal sejarah*。一九八八年に現在の誌名に変更。③創刊時の誌名は *Kajian ekonomi Malaysia*。意味は「マレーシア経済研究」。一九八八年に現在の誌名に変更。④一九七四年にいったん停刊となる。一九七八年に新シリーズとして復刊し、英語の副題が付いた。文化人類学、社会学関係の論文を対象とする。⑤年一回ないし二回の刊行となっているが、実質的に年刊である。マレーシアの法制度の実態を反映してか、大半の論文は英語である。⑥誌名は「学者」「知

表1 シンガポールの主要コア・ジャーナル

	誌名	創刊年	刊行頻度	対象分野	使用言語	査読	編集・発行；発売	電子版	所蔵館数
①	The Singapore economic review	1956	季刊	経済	英語	有	Economic Society of Singapore; World Scientific	無	30
②	Journal of Southeast Asian studies	1960	年3回	人文・社会	英語	有	Department of History, NUS; Cambridge University Press	有	146
③	Singapore journal of tropical geography	1980	年3回	地理	英語	有	Department of Geography, NUS; Wiley-Blackwell	有	41
④	Asia Pacific journal of management	1983	季刊	経営	英語	有	Asia Academy of Management; Springer	有	34
⑤	Contemporary Southeast Asia	1979	年3回	政治	英語	有	Institute of Southeast Asian Studies	有	80
⑥	ASEAN economic bulletin	1984	年3回	経済	英語	有	Institute of Southeast Asian Studies	有	78
⑦	Sojourn: journal of social issues in Southeast Asia	1986	年2回	社会	英語	有	Institute of Southeast Asian Studies	有	52
⑧	RELC journal: a journal of English language teaching in Southeast Asia	1970	年3回	言語	英語	有	SEAMEO Regional Language Centre; Sage	有	90
⑨	亜細文化：Asian culture	1983	年刊	中華圏	中国語・英語	有	Singapore Society of Asian studies	無	6
⑩	南洋學報：journal of the South Seas Society	1940	年刊	中華圏	中国語	有	South Seas Society; World Scientific	無	21

(注) 1) 誌名変遷は省略。表2も同様。

2) 「所蔵館数」は、国立情報学研究所 (NII) が主催する目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL) に自館の所蔵情報を提供している日本の図書館等の数を表す。

表2 マレーシアの主要コア・ジャーナル

①	Journal of the Malaysian branch of the Royal Asiatic Society	1878	年2回	歴史	英語	有	Malaysian Branch of the Royal Asiatic Society	無	30
②	Sejarah	1960	年刊	歴史	英語・マレー語	有	Department of History, Universiti Malaya	無	2
③	Malaysian journal of economic studies	1964	年2回	経済	英語・マレー語	有	Malaysian Economic Association, Universiti Malaya	無	6
④	Manusia dan masyarakat: man and society	1972	年刊	人文・社会	英語・マレー語	有	Department of Anthropology and Sociology, UM	無	3
⑤	Journal of Malaysian and comparative law; jurnal undang-undang	1974	年1～2回	法律	英語・マレー語	有	Faculty of Law, Universiti Malaya	無	4
⑥	Sarjana	1981	年2回	人文・社会	英語・マレー語	有	Faculty of Arts and Social Sciences, Universiti Malaya	無	1
⑦	Akademika	1972	年2回	人文・社会	英語・マレー語	有	Faculty of Social Sciences and Humanities, UKM	無	4
⑧	Jurnal ekonomi Malaysia	1980	年刊	経済	英語・マレー語	有	Faculty of Economics, Universiti Kebangsaan Malaysia	無	3
⑨	Kajian Malaysia: journal of Malaysian studies	1983	年2回	人文・社会	英語・マレー語	有	Universiti Sains Malaysia	有	5
⑩	Dewan bahasa	1957	月刊	言語	マレー語	無	Dewan Bahasa dan Pustaka	無	5
⑪	Dewan masyarakat	1963	月刊	社会	マレー語	無	Dewan Bahasa dan Pustaka	無	6
⑫	Malaysian management review	1966	年2回	経営	英語	有	Malaysian Institute of Management	無	5
⑬	Malaysian business	1972	月2回	経営	英語	無	Berita Publishing	無	13
⑭	Aliran monthly	1980	月刊	政治	英語	無	Persatuan Aliran Kesedaran Negara	無	3

(注) 大学名はマレー語名で表記。

識人」の意味。⑦ U K M の雑誌らしく、他大学のものよりもマレー語論文の比率が高い。⑧ 開発途上国の経済を対象とするが、マレーシア関連が一番多い。やはり、他大学のものよりもマレー語論文の比率が高い。第二十六号（一九九二年）までは年二回刊行。第二十七号（一九九三年）以降は年刊となる。⑨ 誌名は「マレーシア研究」の意味。電子版も出されている。⑩ ⑪ 教育省の下部機関である国立言語文学研究所により、マレー語、マレー文化の研究と普及を目的として刊行された。国の機関でないと継続的刊行は困難なものである。⑫ 経営者間の交流事業、企業向けの研修などを行う保証有限会社が発行主体。マレーシアの経営問題、企業環境等に関する論文を掲載する。⑬ 与党色の強い出版社が刊行するビジネス情報誌。企業

上級管理職、銀行家、投資家、経営コンサルタントなどが主たる読者層であるが、研究者にも読まれている。⑭ 誌名は「潮流」「動向」といった意味。「マレーシア社会の民主的改革」を標榜する N G O が刊行する。ペナンに本部を置く。政党の機関誌以外で反体制的な見解を表明する定期刊行物はマレーシアでは珍しい。

●共通点と相違点

シンガポールとマレーシアは歴史的・文化的に関係が深いが、出版物に関しても同様のことがいえる。たとえば、同名の雑誌や新聞が両国で出版されている例がみられる。ここでは、J M B R A S (マレーシア①) などはシンガポールで創刊されたものである。一方、現時点で両国のコア・ジャーナルを比べてみると、総じてシンガポールのほうが運営面で一步先を進んでいるといえる。編集体制のグローバル化、販売網の効率化、電子版の整備状況などを比較すれば明瞭である。それが日本での所蔵館数の相違にも表れているのかもしれない。

(ひがしかわ しげる／アジア経済研究所 図書館資料企画課)